

■栗本鋤雲 幕臣としてフランス交渉にあたるうち<明治維新>,即座にジャーナリストに転身し,新時代の先導的役割。

くりもとじょうん

英船浦賀来航1822= 江戸神田猿楽町で,幕府医官喜多村槐園の第三子に生まれる。

富嶽三十六景1831= 9歳:

幼時は病弱であったが,

大塩平八郎乱1837=15歳:

適塾入塾・ 1838=16歳: この頃から健康になり, 安積良斎に入門,

勸進帳初演・ 1840=18歳: 昌平黌)に入って佐藤一斎に師事,

順天堂始・ 1843=21歳: 醫試甲科に合格。

阿部正弘首座1845=23歳:

かたわら医を曲直瀬養安院に学び,

・ ・ ・ ・ ・ 1848=26歳: 幕府奥詰医師栗本家の養子となり,

北斎没・ ・ ・ 1849=27歳:

国定忠治磔・ 1850=28歳: 家業を継いで幕府奥詰医官となったが,

ペリー来航・ 1853=31歳:

安政大地震・ 1855=33歳: オランダからの献上船が江戸に着いた際に, その募集に応じて乗船したことなどが問われて,

五ヶ国条約・ 1858=36歳: 免職となり, 箱館に移住。

フランス人の口述を筆記して「鉛筆記聞」を著す。

桜田門外変・ 1860=38歳:

遣欧使節・ 1861=39歳: 肺を病むと, 以後, 酒と煙草を絶って摂生に努める。

病院, 薬園などの造成に尽力したことが賞され, 士分に列して箱館奉行支配組頭となり, 樺太・千島を視察して, ロシアとの外交について建議書を提出, その卓見が認められ,

8月18日政変 1863=41歳: 江戸に戻り, 昌平黌頭取に任ぜられる。

禁門の変・ 1864=42歳: 將軍から目付に取り立てられ, さらに横浜鎖港談判を委任されて失敗するも, 親仏派として列強との外交交渉に活躍, 信頼を回復して軍事奉行に昇進, 兵庫開港取消談判の折衝を希望して外国奉行になる。

薩摩藩士密航1865=43歳: 突然免職となったが,

大政奉還・ 1867=45歳: *日本が初めて参加したパリでの万博のため, 幕府がフランスへ使節団を派遣することになった際, 急遽登用されてフランスに渡り, その間に, 幕府の命運尽きたことを悟って, ナポレオン3世からの薩長討伐の勧誘を巧みにかわし, アルプスに登り, 植物を採集などして,

明治維新・ 1868=46歳: 維新後に帰国すると, 小石川大塚に隠退して帰農するが, もともと本草学に明るかったことから, 農園(借紅園)も評判となる一方,

戊辰戦争終・ 1869=47歳: 万博開催期間中, 物品を出展した清水卯三郎ら日本商人が, 貨物授受のトラブルによる現地裁判が, 後に箕作麟祥によって翻訳され, 日本の近代法の礎にもなったナポレオン法典に基づいて, 冷静かつ公正に行われて感銘を受けたことなどを記した「砲庵十種」(鉛筆紀聞・曉窓追録)を発表,

学問のすすめ1872=50歳: {毎日新聞}を経て,

明治6年政変 1873=51歳: *他社との競争に危機感を抱いた{郵便報知新聞}に招かれ, 編集主任として入社。

論説は古沢滋らに任せて全体を統括し, 自らは随筆「出鱈目」「五月雨」など次々と発表。

三つの反乱・ 1876=54歳:

西南戦争・ 1877=55歳:

・ ・ ・ ・ ・ 1880=58歳: 学会員に推される。

明治14年政変1881=59歳:

新聞の権威を高め, 内外の人望を得たが,

内閣発足・ 1885=63歳: *老齢を理由に退社。

以後, 小石川大塚で悠々自適して,

帝国憲法発布1889=67歳:

日清戦争始・ 1894=72歳:

八幡製鉄始・ 1897=75歳: 没した。